

生駒いいもり里山  
「森の劇場」  
プロジェクト

平成 21 年 11 月 11 日



生駒いいもり里山サポーターズ理事長 古谷昭雄  
太成学院大学 人間学部 講師 猪池雅憲

## 企画コンセプト

里山とは里にある森林です。里とは大自然であり、都市と自然の間にある場所を指します。大自然と都市とをつなぐ空間が里山なのです。かつて里山は、嚴重に管理されていましたが、近代化が進んだ明治維新以降は、木材の盗伐・乱伐が横行し里山の森林が急激に失われました。太平洋戦争時には物資欠乏のため、各地にはげ山が出現。戦後以降は里山の宅地化・里山の放置は現在まで続いています。



[http://www.toyota.co.jp/moritanken/text/c\\_what.html](http://www.toyota.co.jp/moritanken/text/c_what.html) より引用

本来の里山は近隣の住民が利用しやすいように形を変え、人が利用してきました。しかしながら、エネルギー源が変わると、森林は必要でなくなりました。私たちはみんなが利用し、みんなが管理できるそんな里山を育てようと考えています。

里山の働きには、台風や砂ぼこりなどをやわらげる。木々が根をはる土地は、スポンジのように水を吸い、土砂崩れや洪水を防ぎます。また、空気をきれいにします。植物は、光合成によって、この二酸化炭素を吸って、自分の生活に使っているのです。里山にはさまざまな植物がはえ、動物も生息しています。子どもたちにとって絶好の遊び場でもあるのです。木登り、木の実とり、昆虫採集、かくれんぼ、竹トンボづくり、キャンプなど数えればきりがありません。

しかし、そんな里山も、高度成長期以降から、手入管理する人たちがいなくなりました。その為、草木が乱雑にしげり、やぶになっています。そんな場所をフィールドにしてかつては大事にされてきた里山を現代のカタチにデザインし。自然公園「森の劇場」を目指し活用しようと進めています。

## 企画の概要

NPO 法人 生駒いいもり里山サポーターズは、平成 8 年（1996）の秋から「飯盛・北条の里山を保全する会」をスタートさせ。さらなる発展を目指して、平成 15 年（2003）初夏に「生駒いいもり里山サポーターズ」と改めました。

現在、正会員・準会員を含めて 30 名が活動しています。例会活動は毎月第 1 日曜日、準例会は第 3 日曜日、午前 10 時～午後 3 時まで、生駒山系の飯盛山麓（大東市北条）で里山保全作業を行っています。

今では、子供が遊びやすいようにと間伐材でブランコを作ったり、木を覚えてもらおうと名前を書いたプレートを作成して取り付けるなど、工夫を凝らした活動を実施しています。



平成 8 年から始められ今年で 14 年が経過しました。設立 15 周年を一つの区切りに、もっと、広く市民、住民の方々に里山を知り、利用してもらおうと考えています。幼稚園・小学生の里山 1 日体験。生徒、学生には、里山を通して生態系や環境のことを肌で感じてもらい、実際に里山の保安全管理を経験\*1。

自然環境を守り、活用する取り組みを皆で活発化していこうと思っています。



\* 1 : 興味・関心のある方はご連絡ください。

事務局：太成学院大学 地域デザイン研究室／猪池雅憲